

ペースメーカー電池交換手術説明書

1. 病名、病状

洞不全症候群、房室ブロック、徐脈性心房細動、その他（ ）
上記の不整脈によりペースメーカーが植え込まれますが、電池が減少しており、放置しておくとならざる状態です。

2. 手術名とその内容（手術予定日 平成 年 月 日）

ペースメーカー交換術。
前胸部皮下の古いペースメーカーを取り出し新しいペースメーカーを移植します。

3. 麻酔の方法・内容（全身麻酔・腰椎麻酔・硬膜外麻酔・局所麻酔・その他）

局所麻酔

4. 手術の必要性と、手術をしないときの経過予想

ペースメーカーの電池が消耗しており新しいものに交換する必要があります。
本治療をされない場合には予後が悪化する可能性があります。

5. 他の治療方法との比較、その利点と危険性

他の方法はありません。

6. 手術自体の危険性及び考えられる合併症

気胸、出血、感染症等
合併症の程度により輸血や再手術が必要となる場合があります。

7. 予後（経過予想）及び考えられる後遺症

通常5-6年毎にペースメーカー本体（電池）の交換手術が必要です。
長期的には、リードの断線による再手術が必要なことがあります。

8. 通常は発生しないが起こり得る重大な危険性

リードによる心穿孔、ショック

9. その他

医療機器の適正使用のため医療機器関係の業者が手術に立ち合う場合があります。